

**東京ピクニッククラブ
TOKYO Picnic Club**

2002年にピクニック生誕200年を記念して結成。メンバーは建築家、グラフィックデザイナー、写真家、ランドスケープアーキテクト、フードコーディネーター、パティシエ、キュレーター、プランナーなど。ピクニックの原形を歴史に探りつつ、多彩なクリエイターのコラボレーションによって、自由に洗練された現代のピクニックの姿を提案する。都市居住者の基本的権利として「ピクニック・ライト」を主張し、社交の場としての都市の緑地や共有スペースの利用可能性を追求する。東京を中心に活動中。

主要メンバー：

太田浩史 (代表：建築家／東京大学国際都市再生センター研究員)
伊藤香織 (東京理科大学 講師)
松田朋春 (ワコールアートセンター チーフプランナー)

吉開俊也 (月刊ソトコト編集部)
福留奈美 (フードコーディネーター)
則武 弥 (ペーパーバック代表／グラフィックデザイナー)
石川 初 (株式会社ランドスケープデザイン設計長／ランドスケープデザイナー)
鈴木 豊 (写真家)
北村ケンジ (イラストレーター)

主な活動：

- 2002 「ピクニックとは何か」、ランデヴーハウス ミーティング、東京
ピクニック生誕200周年記念ピクニック、新宿御苑、東京
「RVピクニックセットの開発」、UD21にいがた定例発表会、新潟
- 2003 「RVピクニックセット」、ランデヴープロジェクト「マイ・スイート・ホーム」展、東京
「ピクニック・ライト」発表
第一回アニュアル・ピクニック、新宿御苑、東京
ピクニック・フィールドワーク(城南島海浜公園、東京国際フォーラム地上広場、国会前庭、交通会館3階屋上庭園、小名木川貨物線敷、晴海埠頭公園、台場公園、品川セントラルガーデン、代々木公園、皇居外苑、日比谷公園、水元公園、砧公園、野川公園、光が丘公園、明治神宮内苑など)
ピクニック・ミーティング、皇居外苑、東京
フェアウェル・ピクニック、新宿御苑、東京
- 2004 アンティークピクニックセット70個を購入、伊藤太田所有分を含めコレクションが100を超える
森美術館「六本木クロッシング」展に、現代美術の作家57組の1メンバーとして出展
「ポータブル・ローン」発表
「ピクニックの心得(4カ国語バージョン)」発表
オリジナル紅茶「ピクニック・ティー(グリーンフィールド&ブラウン・フィールド)発表
オリジナルレシピ「ピクニック・サンドウィッチ&ピクニック・ケーキ」発表
以上を題材として、「ピクニック・ワークショップ」を開催(2/21、3/21)
J-Wave・ゴールデンウィーク特番「Seven Colors」に出演(04/29)
ピクニック・ミーティング、多摩川河川敷、東京
第二回アニュアル・ピクニック、皇居外苑、東京
オリジナル・サウンドトラック「ピクノ・サウンド」を発表
J-Wave・「Secret Passage」に出演(07/03)
下北沢doorにて「東京ピクニッククラブ展」を開催
オリジナル・ツナギ&ポスター「Picnic Rights」を発表
ピクニック・ミーティング、中央区湊第二公園、東京
ピクニック・ミーティング、城南島海浜公園、東京
ピクニック・ミーティング、新宿御苑、東京
J-Wave・「Lohas Morning」に出演(10/01)
フェアウェル・ピクニック、新宿御苑、東京
- 2005 ピクニック・ミーティング、代々木公園(01/31)



スパイラルガーデン「都市とあそぼう」展にアーティストとして参加
ピクニック・ミーティング、六本木ヒルズ森タワー屋上ヘリポート (02/26)
ムービー「Fight For The Picnic -ピクニック・シティへの6つの提言」発表
Groovisions デザインの「ピクニック・カー」をプロデュース
スパイラル・カフェにて「ピクニック・カフェ」をプロデュース

主な文献：

単行本

- ・伊藤香織+太田浩史 (2003), 東京ピクニッククラブ編, 『Picnic Papers 0』, 新風舎.

雑誌等

- ・「ピクニックという週末ライフ」, 『BISES』, 2003年春号, ベネッセ pp.-
- ・デザイン・ヌーブ+伊藤香織 (2003), 『ピクニック・ライト』, StudioVoice, vol.329, インファス.
- ・東京ピクニッククラブ (2003), 『ピクニック・フィールドワーク』, 10+1(ten plus one), no.32, pp.187-202, INAX 出版.
- ・「六本木クロッシング」展カタログ(2004), 森美術館, pp.253-256
- ・「東京ピクニッククラブ」, 『Soltero』, 2004, 日経BP, pp.44-48
- ・「わが屋のスローフード〜東京ピクニッククラブ」, 『ゆっくり AERA』, 2004, 朝日新聞社, pp22-24
- ・「小特集 今年ピクニックしよう」, 『BE-PAL2005年2月号』, 小学館, pp132-pp141
- ・「東京ピクニッククラブの提案」, 『心地よい暮らし vol.2』, pp084-087, 2005, 宝島社
- ・「東京ピクニック宣言!!」, 『Hills Life』 4月号, 2005, pp4-11, 森ビル株式会社
- ・「本日はPICNIC!」『Sesame』 5月号, 2005, 角川 SS コミュニケーションズ

インターネットサイト：

公式サイト

- ・東京ピクニッククラブ HP (www.picnicclub.org)

紹介サイト

- ・東京ウィークエンダー (<http://www.weekender.co.jp/new/040206/5-artists.html>)
- ・J-Wave 「Secret Passage」 (<http://www.j-wave.co.jp/original/secretpassage/040703.html>)
- ・J-Wave 「LOHAS MORNING」 (<http://www.j-wave.co.jp/original/lohas/sense/contents-049.htm>)
- ・ソニースタイル (<http://www.jp.sonystyle.com/Asobi/20041001/>)

「ピクニック・ライト」

東京の公園面積は一人あたり5.2m²である。ニューヨークは29.1m²、ロンドンが26.9m²。しかし、ただでさえ狭い都市のオープンスペースは、我々に十分に開放されているだろうか。必要以上の植栽、立入禁止の柵、居場所を限定するベンチ。早すぎる閉園時間。集積効果のために高密度居住に甘んじているのに、我々はいまだに美しい落日を語り合う空間さえも手にしていない。

ピクニックは、公園の誕生に伴うように、都市環境が悪化したロンドンで1802年に生まれた社交である。それは都市居住の不自由を補完する、空間利用の知恵である。我々は、狭い家に格好良く人を呼ぶことはできない。だからこそ、人との交流を都市空間に求めたいのだ。我々は、自然を楽しむ庭を持つことができない。だからこそ、都市の緑を愛し、季節を感じ取っていききたいのだ。

それゆえに、東京ピクニック・クラブは「ピクニック・ライト」を主張する。我々は、ピクニックをする場所が欲しい。ベンチでもなく、噴水でもなく、ただただ広い芝が欲しい。もしも公園と緑地＝グリーン・フィールドを開放してくれたなら、ピクニックは、都市を交流の場として読み替える実践となるであろう。緑地が足りず、芝がなくとも、活用されていない空地＝ブラウン・フィールドがあったなら、そこで食事や会話をしてみたい。そうすれば東京でのピクニックは、都市文化を育む 200 年目の実験となるであろう。人と出会い、時間を忘れて語り合い、自然と文化を楽しむ権利。それを都市のなかに求めていきたい。

